

「はじめに」

法人制度改革など経営を取り巻く環境は大きく変化している。

しかし、現在も過去も「社会福祉法人」が地域で存在する理由は「未来への安心」を提供し続けることだと考える。

すぐそばに「みちのく福祉会」があるから「安心」と思われるような経営に努めたい。

これは法人理念の「寄り添い、共にあり続けること」に合致する。

6つの重点項目を掲げ、3年間で過ごした。

1. 働きがいの確立と、職員の確保
2. 質の管理、向上への取り組み
3. 具体的な広報活動と情報開示
4. 財務体質の強化
5. 拠点施設数の増
6. 先駆的経営

この6つの項目において「できたこと」「できなかったこと」がある。

詳しい反省は28年度報告であげるが「できなかったこと」については、共通の理由が見られる。

「PDCAの不徹底」「目的、目標の不明確」「慣習」の3つである。

この3つの理由の根底にある問題は「意識」である。

法人に属する者全員で「意識」が変わらなければ、理念の具現化はできない。

現場に「仕事」をおとすとき、あれもこれも多数に亘る支持を出してしまっていないか。

6つの重点項目はどれも重要だが、目標・目的を複数出すことでボヤけてしまっていないか。

# 平成29年度 社会福祉法人みちのく福祉会 経営方針

## 基本方針

我々「社会福祉法人みちのく福祉会」は法人理念である「寄り添い、共にあり続けること」を事業活動におけるすべての行動目標として、次に掲げる3つのことを確実に履行する。

### 1. 目的・目標の明確化

なぜ「その仕事」「行動」を行なうのか？言われたから動くのではなく、「目的意識」を必ず持つこと、持たせること。

### 2. PDCAの徹底

各施設・部署において「日次」「週次」「月次」単位での目標の管理、PDCAサイクルを徹底的にまわすこと、行なうこと。

### 3. 上から順に汗を流すこと

頑張っていないリーダーに求心力はつかない。

## 具体的施策

### 「アクションプラン 2020」の利用

全国社会福祉法人経営者協議会が作成した「アクションプラン 2020」は、社会福祉法人を経営するうえで重要な事柄に対し非常に有益なツールであると認識し、自己評価、計画の進捗度、取り組むべき課題の抽出などにこれを活用する。

活用の仕方としては、月次の定例会、主任課長会議、各種委員会において「アクションプラン 2020」の中から取り組み項目、課題を設定し月次でPDCAをまわしていくこととする。